

第1、近況、雑感

1. 収穫の秋は、熊の出没で始まるようになった。冬眠のため餌の足りない森を諦めて、なんと食品スーパーまでお出ましになるのは、人間の無策を笑っているかのようだ、春までに穴の中の育てる子のために、人間に共生を求める図かもしれない。「出没注意」の、どう注意したらいいのと言いたくなる看板やワナを増やし、射撃方法を少しくらい変えたところで、事態は少しも好転しないことは学習済みなのに、行政はほぼ無策。
2. 林業政策の永い間の失敗を熊に負わせる訳にはいかないし、広葉樹林の不足を言っても始まらないのであれば、急ぎ熊たちのすみか近くに「エサ場」を設けて、人間が余した期限切れの食品などを搬入、熊の状態を知るための発信チップも入れて、熊たちにお山にお帰り頂くことで、人間との共生を計ることを急ぎ検討してはどうだろうか。
3. 共生を求めているのは熊だけではないようだ。長い間、この国の政治に影を落とした宗教党も、やっと存命のための共生をあきらめて離脱宣言。あわてた女ギツネさんが選んだのは、別居必致の大坂勢力。お互いに数合わせの共生を求めてのことだが、明治維新と時代が違うことを学んでいないのかと言いたくなる。国民の生活安定が第一、日本の政治動向が世界に与える影響を重視して、共生の実効性を示してほしいものである。
4. 住民生活の敵は熊だけではなかった。またも年中行事の鳥インフルの来襲である。北海道白老で、46万羽の卵鶏が感染で殺傷処分のうえ、地中埋設。養鶏は人間の側が、栄養確保のために共生を求めたもので、感染拡大を防ぐためとは言え、熊と同じ無策で良いのか。来春まで全国的に、この鳥インフルは拡大すること間違いないのだ。
5. 当社グループの余市のサンケン農園では、毎年食事中の熊に遭遇しているが、自分の森に近いリンゴの樹に陣取って、人間様には興味がないので安全な熊もいるのだ。一方、養鶏体験は、略歴書に載せ忘れたが小樽郊外で、ズワイガニの残渣とミネラルコーンを与えて、2年間続けたことがあるので少しは知見がある。20年以上前のこと、生卵1ヶ600円、17ヶ入1万円の箱入病気見舞用＜青春のたまご＞の生産販売で好評を得たが、ズワイガニ漁船減船で廃業、作り話のようだが、当時の岐阜県知事が書いたブレークスルーの本に紹介されている。
6. ミネラル水を使った大型健康養鶏場の経営を、八女市で手伝ったことがある。後の〈AirDo〉の社長となった浜田さんと、農業小島塾北海道の山本克郎さんに白老の温泉で「鶏は空を飛べない」と揶揄されながら、わが国初の格安航空のスタートに関わって楽しかった記憶は、何故か銀杏の黄色の葉が舞う秋が似合うのだ。話が外れたが、養卵鶏は常時水を飲む。その水を厳選することでウイルス感染を防ぐ可能性があると書いても、エビデンス信者は耳を傾けることなく、卵鶏の悲劇は春まで続くことだろう。
7. 食品物価の優等生と言われた鶏卵は、すでにその地位を失ったが、人間の側が共生をお願いした割には、災難が少なくない。少し前には農林大臣がクビになったり、鳥インフルにねらわれたりだが、子孫を残すこともなく、180日間働いて・働いて・働いて、玉子を生み続け廃棄されることを考えると、食

- 欲も落ちるのは仕方がない。個人としては家人に勧められた場合は、ホルモン剤未使用の初産 S 型のものを口にするだけで、料理の友になってはいいことも可哀そう。
8. トランプの関税音頭が聴こえなくなったと思ったら、今度は外遊先で核実験 言明、これはまさに裸の王様発言、許せる許せないの問題などではない。世界の警察官を諦めていないアメリカは、いつ王国になったのか。歴代大統領の誰もが手をつけられなかった1958年の核爆弾の処理が先ではないか。
 9. その年の2月4日、広島に投下された原爆の100倍もの破壊力のある原子爆弾が、やむなくジョージア州の沿岸に放棄されたまま行方不明で発見されていない事件。王様発言を撤回しこの処理ができたら、少しはノーベル平和賞に近づくのでは、と言いたいがさてさて…。

第2、 今月の報告文

- ・ディビーアイランドの核爆弾(ダニエル・スミス、小野智子)

1958年、米空軍機から核爆弾1個がジョージア州沿岸に投下された。

第3、 今月の再読本

- ・ 「思い出のツキノワグマ」家族になった10頭の熊たち
(宮沢正義、2006.12.10、日本熊森協会企画 1,600円)
- ・ 「なぜニワトリは毎日卵を産むのか」鳥と人間のうんちく文化学
(森 誠、2015.12.20、こぶし書房 2,000円)
- ・ 「地球文明の寿命」人類はいつまでも「発展」を享受できるか
(松井孝典、安田喜憲、2001.6.4、PHP研究所 1,500円)
- ・ 「あなたの仕事は「誰を」幸せにするか？」
社会をよくする唯一の方法は「ビジネス」である
(北原茂美、2014.8.28、ダイヤモンド社 1,400円)
- ・ 「原発広告」原発広告250点一挙収蔵！いかに「安全幻想」は植え付けられたか
(本間龍、2013.10.8、亞紀書房 1,600円)

第4、 今月のことば

- 薔薇はなぜという理由なしに咲いている。薔薇はただ咲くべく咲いている。薔薇は自分自身を気にしない、ひとが見ているかどうかも問題にしない。(シレジウス)
- 誰だって、自分の欲望、思想、苦痛を正確に示すことはできない。そして、人間の言葉は破れ鍋のようなもので、これをたたいて、み空の星を感動させようと思っても、たかが熊を踊らすくらいの曲しか打ち鳴らすことはできないのである。(フローベール)
- ただ過ぎに過ぐるもの帆かけたる舟。人の齡。春、夏、秋、冬。(清少納言)

2025年10月31日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)